

Interview #09

*2025年3月インタビュー

2025年3月所属：理学研究科 理学専攻 物質・生命化学領域
(卓越大学院GTR／日本学術振興会特別研究員)

2025年4月所属：医療機器メーカー



理学研究科の先輩

これまでやってきた研究の概要を教えてください

有機合成で蛍光色素を作り、その色素を使って細胞の中の構造や現象をイメージングする研究をしてきました。量子化学計算を使い、分子がどのくらいの光で光るのかを予想しながら、分子をとにかく大量に作って物性を測り、細胞に入れてみる…という実験を繰り返してきました。

この春からはどういう仕事をする予定ですか？

この春からは、医療機器メーカーで働く予定です。身体に装着する小さな医療機器を作るにあたって、研究開発職に就きます。具体的な仕事内容は材料研究かなと思っていますが、配属先は確定していません。新規部門、AI部門、化学部門などの可能性もあります。

博士進学に関する考え方は？

博士課程に挑戦した理由は大きく3つあって、1つは博士号という称号が格好良いからです。2つ目は学部4年生で研究を経験し、そのテーマを最後まで突き詰めたいと思ったから。3つ目は、今後、日本においても博士号取得者の存在感が大きくなり、海外とやり取りする際にも学位の有無が重要になると考えたからです。

キャリア形成にあたって活用したこと、在学中に経験してよかったことを教えてください。

名大主催の、企業と博士人材の交流会イベントに参加できたのは良い経験でした。結果的に、コミュニケーションをとった企業とはご縁がありませんでしたが、イベントを通じて企業の中の人と知り合い、意見交換できたのは就活において貴重な経験となりました。また、卓越大学院のイベントをきっかけに、他分野の研究者と知り合うことができ、情報交換もできました。博士学生は孤独になりがちなので、学内外のイベントに積極的に参加するのがおすすめです。

就職活動で評価されたであろうと思うことはありますか？

積極的に後輩指導をしてきた経験が高く評価されたような実感があります。自分の思い通りに動いてくれない後輩たちをまとめて成果を追及するマネジメント力、指導を通じて他人に分かりやすく説明するスキルなどを磨くことができたと思います。後輩指導はエピソードとしては地味かもしれませんが、実は企業・ビジネスにおいても重要な能力なので、面接でもしっかり聞いてもらえたように思います。

後輩たちにエールをお願いします。

博士課程は研究活動だけでなく、学会発表や論文作成、そして就職活動など、多くのことを並行して行う必要があります。大変な道のりです。しかし、私は博士に進学して良かったですし、もし修士卒で就職していたら博士号を取らなかったことを後悔していたと思います。

無理に全てを完璧にこなそうとせず、優先順位をつけながら、焦らず、休息を取りながらペース調整するといいでしょう。また、一つの方法に固執するのではなく、今ある研究をもとに他の可能性を考えたり、発想を転換したりすることも、困難を乗り越えるきっかけになります。私の場合は、同じ研究室の同期が博士になってからボンボンとうまくいっていて、どうしても比べたり焦ったりしました。あえて近付いてコミュニケーションすることで、先に成果を出しているように見えても、案外お互いに悩みを抱えていることにも気付きました。

積極的に周りの人に相談したり、アドバイスを求めたりするのも大事ですね。就活については、先ほども言いましたが早めに情報収集を始めてアンテナを張っておくのがおすすめです。今後、博士号取得者には様々な可能性、ポテンシャルがあると思います。困難な時期は必ずあると思いますが、自分のペースで研究を楽しみましょう。